

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270300033		
法人名	有限会社 グループホームふるさとの家		
事業所名	グループホームふるさとの家「城下」	ユニット名	
所在地	長崎県島原市新湊二丁目丙1740番地2		
自己評価作成日	2020年10月15日	評価結果市町村受理日	2020年11月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院4-3-7 フローラ薬院2F		
訪問調査日	2020年10月29日	評価確定日	2020年11月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者のこれまでの生活歴を理解し、本人の希望も聞きながらできるかぎり実践したいと思います。また、これまで経験したことのない活動にも職員と一緒に参加し楽しんでもらえるよう支援したいと思います。今年は、新型コロナウイルス感染症の影響の為、活動が制限されていましたが、中でも、音楽療法、和太鼓は手作りの道具を用意し、利用者に楽しんでもらっています。その日の予定には立てていなくても、利用者が希望されたら、実践できるような施設でありたいと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームふるさとの家「城下」の玄関には、筆で書かれた理念「老いても障害を持っても当たり前に分らなく普通に暮らしたい」が貼られている。1998年、古民家を改装してグループホームを始められた時から飾られていた理念であり、今も変わらず大切にされている。2011年に現在の場所に新築移転されており、日本の良き風情を残し、トイレの戸や食器棚も木目調にされている。理念にある、ご利用者個々の「当たり前」の生活を理解するために、入居前の生活や役割等を教えて頂いており、家事作業などを職員と一緒にしながら、意欲を引き出すと共に、コロナ禍においても楽しみを増やすように努め、室内でそうめん流しをされたり、日々の役割(タオルたたみ、縫物等)を担って頂いている。2020年4月、隣接するデイサービスに勤務していた方が新管理者となり、新たなチーム作りを続けている。施設長との連携も密に行い、コロナ禍における感染対策を強化すると共に、職員個々の自主性を引き出しながら、更なる結束を強めているホームであった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職場の理念を、職員同士で理解、共有し、日頃のケアに取り組んでいる。	重度の方が多く生活されている中、「当たり前」「普通に」という理念の実践に努めている。ご利用者から「饅頭を食べたい」等の願いを伺い、常備している材料でご利用者も一緒に饅頭作りを楽しまれたり、意思疎通が困難な方も、「あ〜」等の発声から思いを汲み取るように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設での祭りや防災訓練など、地域の方へ案内を出し参加してもらっている。また、市民清掃においても交流をはかっている。	地域の回覧板が事務所に届き、各事業所と共有している。地区の防災訓練にホームの防災管理者が参加したり、高校生の福祉実習も受け入れている。コロナ以前は八幡神社のお神輿がホームに来て下さり、ご利用者もお賽銭を入れたり、ご利用者と地区の運動会、お祭り、鬼火に参加していた。	コロナ収束後は、地元の安仲保育園との交流方法を検討したり、毎年参加している市民清掃時(年2回)に、より広く2丁目の住民の方々にご挨拶し、更なる地域交流を行っていきたく考えている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において、地域の方々との話し合いを設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に行い、利用者の状況を行事新聞を使い報告し理解してもらっている。	手作り新聞やご利用者の状況等をお渡しし、ホームの取り組みを理解して頂いている。コロナの感染状況を見ながら、2020年5月・9月等は開催している。災害対策も話し合い、外部評価結果も報告し、「施設の状況と運営を第三者から見てもらうのは良いことだと思います」等の感想を頂いている。	会議の際に参加者から頂いた意見を基に取り組みを進めている。今後は更に次回の会議で取り組み内容を報告したり、消防からのアドバイス内容の取り組み状況も報告し、記録に残していく予定である。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政の方にも運営推進会議に参加してもらい、意見交換をし、協力関係を築いている。	専務(事務長)や施設長、管理者等が行政(支所)を訪問している。島原市に祭りの駐車場の相談や、災害時の地域の避難所の開放や避難所内の状況等について相談報告している。2020年度は施設長が広域等にコロナ関連の相談を行い、適宜アドバイスを頂いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設けていて、社内研修や会議において理解共有し、拘束をしないケアについて取り組んでいる。	身体拘束廃止・虐待防止委員会(年6回)や勉強会を続けている。様々な事例検討を行うと共に、2020年度の職員の年間目標は「ストレス発散、ため込まない」であり、職員個々のストレスケアも続けている。「心のゆとり五か条」も日々実践しており、「身体拘束の無いケア」に取り組まれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃から虐待に繋がっていないか、職員間で声かけし、会議でも話し合いを設け防止に努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修において学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約について十分な説明をおこない、ご家族に理解納得を図っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に要望などをうかがい、また、記入する用紙も用意している。	コロナ禍における面会希望を伺い、感染状況に応じた個別の対応を続けてこられた。家族の方々に新聞(2か月に1回)や職員からの手紙(毎月)を郵送し、日々の暮らしぶりを報告すると共に、家族からの要望である「一緒に写真を撮りたい」「散髪をしてあげたい」等の願いを叶えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議で提案を聞く機会を設け、また、普段から職員個々の意見も聞くようにしている。	職員の良い所を引き出すように努めている。研修や行事等の職員の意見を管理者会議で検討し、職員が前向きに取り組めるようにすると共に、勤務希望も叶えている。代表、専務、施設長、管理者のお人柄もあり、相談しやすい環境であり、毎月、専務とお話する機会も作られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の思いや意見を聞いて下さり、向上心をもって働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修や、社外研修の機会を設けてあり、働きながらトレーニングができています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	親睦会や研修などで、交流をはかる機会を設けてある。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活歴を把握、理解し、本人からの直接の声を聞き、安心して暮らせるよう関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からの要望をうかがい、信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族の思いを聞き、何が必要かを見極めて対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が、必要とされていると感じてもらえるような声かけ、コミュニケーションをとり信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に、お手紙や電話連絡で本人の思いや状況を伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の行きたい所や、馴染みの場所を聞き、できる限り実践できるよう支援している。	自宅で暮らしていた時の役割や友人関係等を教えて頂いている。馴染みの場所は“山”と言われる方が多く、筍掘りや山菜採り、雲仙の紅葉見物や八幡神社、お寺参り、雲仙のフラワー公園、自宅周辺等にお連れしている。コロナ以前はお孫さん(美容師)が散髪にいられていた方もおられる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係に介入しすぎないようにし、また、孤立しないようにさりげなく声かけ接し、支援している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談等あった場合、できるかぎり支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の思いを理解し、職員間で共有し、ケアにあたっている。困難な利用者の場合、ご家族に尋ねるようにしている。	ご利用者に寄り添い、日々の活動の中で興味がある事を把握するように努めている。若い時の趣味や嗜好、仕事を把握すると共に、「早寝早起きして元気に暮らしたい」「時々職員のお世話を受けながらゆっくり過ごしたい」等の要望を計画に盛り込み、叶えるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、ご本人の思いをふまえてケアに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	これまでの暮らしかた、体調面をふまえてご本人に聞きながら過ごしてもらっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人と、ご家族の思いを重点に置き、職員の意見もふまえて介護計画を作成している。	身体介護が増えている中、洗濯物たたみや茶碗拭き、散歩等と共に、転倒予防のための「機能訓練」「城下体操」「手足の曲げ伸ばし10回」等も盛り込み、音楽療法や瑞宝太鼓等の参加も記入している。前回の外部評価以降、日課表に各活動の「できること」「留意点」を増やされている。	今後も【基本情報1】に生活歴を増やすと共に、アセスメントにADL(立位・歩行等)、IADLの「能力」「できそうな事(可能性)」「介助理由」「目標」「解決策」等の記録を増やし、介護計画と連動させていく予定である。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間で気づきなどを話し合い、共有し、実践計画の見直しにかけている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者一人ひとりの状態に合わせて、取り組んでいる。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	学生の職場体験や、保育園児の慰問があり、交流されることで、豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人が負担のないように、かかりつけ医にみてもらうように支援している。	介護計画に医療面の留意点を記入している。内科(月2回)と歯科の往診があり、かかりつけ医は夜中も往診して下さる。職員の観察力もあり、早期対応できており、24時間体制で代表、施設長、主治医、ホーム長(看護師)に相談でき、緊急時は管理者と看護師が受診同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	異変時には連絡し、適切な受診をうけらるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報提供を速やかにおこない、相談等しながら安心して治療がうけられるようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族の意見を聞いて、終末期については再度たずねている。主治医に意向を伝え協力を仰いでいる	「最期までここで」等の希望を伺っており、病状変化に応じて適宜主治医と家族と話し合い、「安楽な生活」「緩和ケア」等の検討を続けている。24時間体制で主治医と連携でき、必要時はホームの看護師が駆けつけて下さる。職員全員で誠心誠意のケアを行い、ご本人のお好きなものを食べて頂いたり、家族も一緒に介助して下さっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	会議などで話し合い、急変時の対応を想定するようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身に付けるとともに、地域との協力体制を築いている また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	消防署、地域消防団、地域の方々の参加をよびかけ、合同防災訓練をおこない、自主防災訓練もおこなっている。	訓練マニュアルを具体的に作り、実施状況は写真で残し、検証記録を今後活かしている。昼夜想定で自主訓練(年6回)を行い、年2回は消防署、消防団、地域の方と4棟合同訓練をしている。各棟の代表(男性職員)が災害対策を毎月検討し、防災頭巾、食料、災害バックや独自の持ち出し品等と共に、災害時に受け入れる系列事業所の利用者情報シートも準備している。居室入口に移動手段(歩行・車いす等)を絵で貼っている。	

自己	外部	外部評価		
		自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合った声かけをおこない、丁寧な言葉使いと気持ちで接するよう心掛けている。	優しく穏やかな職員ばかりで、島原の方言を使い、声の強弱やトーン、話す早さに注意している。職員個々の感情がご利用者個々の行動に影響するので、常に落ち着いて対応するようにしており、ご利用者のお話は親身に聴ように努めている。個人情報管理の研修も続けている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるような声かけをおこない、困難な方は、表情でくみとっている。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者優先を心掛け、一人ひとりのその時の気持ちに寄り添った声かけをし支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔な身だしなみを心掛け、本人の意向に沿ったおしゃれができるよう支援している。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事をしながら好みについての話をしたり、片付けなどの役割をさり気なくしてもらうよう支援している。	嚥下状態に応じて食事形態を変えている。調理担当の方が3食手作りし、休みの日は配食を利用している。1日・15日は赤飯が恒例で、四季折々の行事食等も楽しまれ、誕生日は手作りのケーキでお祝いしている。ご利用者も食器拭き、テーブル拭き等を手伝って下さる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランス、水分量の把握を考え、一人ひとりに応じた支援をしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と毎食後の口腔ケアをおこない、ご自分でされる方は、声かけをしながら支援している。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを記録、把握し、清潔に保てるよう支援をおこなっている。	尿便意を把握し、排泄チェック表に記入し、パッド使用の有無も職員間で検討しており、今後も布の下着の可能性を見極める予定である。トイレまで歩行介助を行う方もおられ、職員が歌を唄いながら楽しく移動したり、車いすを利用する方も多く、2人介助で安全に便座に移乗する方もおられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便のリズム、パターンを記録、把握し、個々にあった運動をしてもらうよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を快適に感じてもらうような声かけをし、個々にあった入浴のしかたで支援している。	湯温の希望等を確認している。入浴時は昔話をし下さり、柚子湯や菖蒲湯も楽しんでいる。立位が困難な方も2人介助で湯船に入られているが、夏はシャワー浴が行われている。重度の方も多く、ご本人の「負担度」を丁寧に考え、冬場も保温しながらのシャワー浴を検討予定である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、夜間とわず、ご本人の意向や体調にあった休息と安眠をとってもらうよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬管理表で内容を理解し、疑問に思うことは都度職員間で話し合い確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴での役割だったことを把握、理解し、ご本人の意向、気分に合わせて楽しめるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	外出することをさりげなく声かけし、個々の体調、気分にあわせて、支援している。	コロナ禍の感染対策を行いながら、庭先での日光浴や周辺の散歩、自宅近くのドライブ、有明のフラワー公園でサルビア等の花見を楽しまれた。系列施設で音楽療法(月2回)や瑞宝太鼓(月2回)等に参加したり、デイに来られる地域の方との交流をされている。コロナ前は花見(桜、つつじ、秋桜、紅葉など)や買物、外食(幸楽)にお連れしていた。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持をされている方はいないが、心配や不安に感じていればご家族が管理されている事を伝え、安心されるように声をかけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	不穏時やそうでない時も、ご本人の希望があれば連絡し、直接話せるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりが過ごしやすい場所や位置を考え、また、本人にもたずねている。季節を感じてもらえるような花飾りもおこなっている。	対面式のキッチンで、リビングと和室全体が一体化し、換気も適宜行われている。ご利用者個々の椅子があり、背もたれ等も個別に調整でき、下肢の浮腫予防で手作りの足台を活用し、足の挙上も行われている。リビングの神棚に手を合わせたり、和室でお昼寝をされたり、洗濯物たたみや新聞折り、レク、歌、体操等を楽しまれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士で過ごせるよう心掛け本人の意向も聞き、快適に感じてもらえるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使われていた本人の物を、自室に飾ったりして居心地よく過ごせるように支援している。	冬は加湿器を使用し、換気も行われている。和室と洋室があり、心身状況に応じてベッドの上にエアマットを使用したり、畳の上にマットレスと布団を敷く方もおられる。タンスや鏡、ラジオ、電気髭剃りを持参している方もおられ、家族の写真等も飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各所に手摺を設置しており、利用者がわかりやすく大きく掲示している。		